

分担研究概要

小児療育相談センター

佐々木 正 美

I 地域療育システムにおける通園施設のあり方に関する研究 (施設のオープン化)

心身障害児のニーズの多様化に対して通園施設がどのように対応すべきかを、精神薄弱通園施設の機能拡大を、1) 地域サービス活動(施設オープン化活動の具体化) 2) ボランティアとの連携 3) 総合通園センターのあり方、の3つの局面から検討を行った。

II 心身障害児の地域ケアと母子保健システムに関する研究

1歳6か月児健康診査を中心に、健診で発見された精神遅滞等の発達障害児の継続ケアのあり方を、横浜市内一保健所管内における1歳6か月健診後のフォローアップ体制と、逗子市における母子保健情報の一貫管理、ハイリスク集団の追跡・医療・療育などの提供等による母子保健システムの再構成について検討を加えた。また、1歳6か月児健診の際に行われる精神発達測定に関して、母親の心理的变化と乳幼児の環境を検討し、予測性の高い測定法についても検討を行った。

III 精神発達遅滞児のための統合保育ならびに通園施設の療育的意義に関する研究

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、その他重度重複障害など、いわゆる心身障害児の療育に関する理念や方法論が、熱心に検討されてい

る。

あらゆる心身障害児に対する障害の早期発見、それに引き続く(超)早期からのケアの実施、健常児と一緒に統合保育、障害に標的を絞った専門的(必要に応じて個別的)療育、両者の交流法、さらに個別的・専門療育の内容の吟味、専門施設・機関の地域社会に向けての機能のオープン化など、研究課題は多い。

そのなかで、本研究は、障害児(精神遅滞幼児)を対象とした専門療育施設と、統合保育を実施している幼稚園および保育所における、心身障害児の発達・療育効果を吟味・検討したものである。